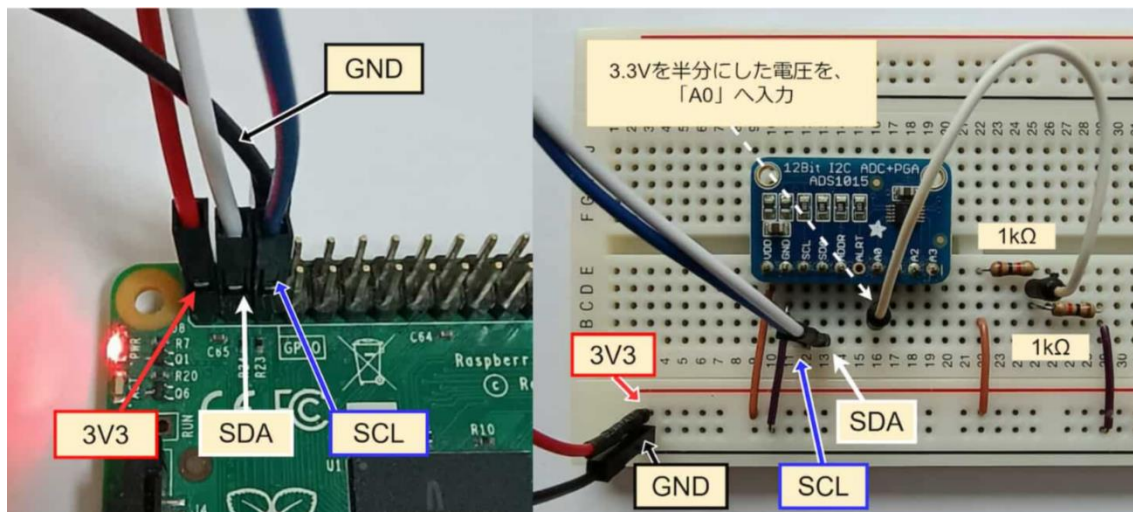


0728

【温度センサを用いて AD 変換】

○まず、センサではなく電圧を出力するように構築した。

ラズパイと AD 変換チップである ADC1015 を以下のように接続。抵抗で分圧して、電源 (3.3V) の半分の電圧が入力されるようにした。 SDA, SCL は I2C の通信線



以下は AD 変換プログラムである。

```
loopback.py x ADconversion.py x setting x
1 import time
2 import Adafruit_ADS1x15
3
4 # ADS1015の設定
5 ads = Adafruit_ADS1x15.ADS1015()
6
7 #ゲインの設定 1=±4.096V
8 GAIN = 1
9
10 #ゲイン 1 の場合の範囲
11 RANGE = 4.096 * 2
12
13 #ADS12bitのため、4096で割ることで、データ「1」につき、電圧は0.002V
14 UNIT = RANGE / 4096
15
16 for i in range(100):
17     ads1015_pin = 0 #ピン指定
18     data = 0
19     volt = 0
20
21     #ADS1015からデータを取得
22     data = ads.read_adc(ads1015_pin, gain=GAIN)
23     volt = data * UNIT
24
25     print("受信データ: " + str(data))
26     print("電圧      : " + "{:.3f}".format(volt)) #少数第3位まで表示
27
28     #1秒間待機
29     time.sleep(1)
30
31 print("done.")
32
```

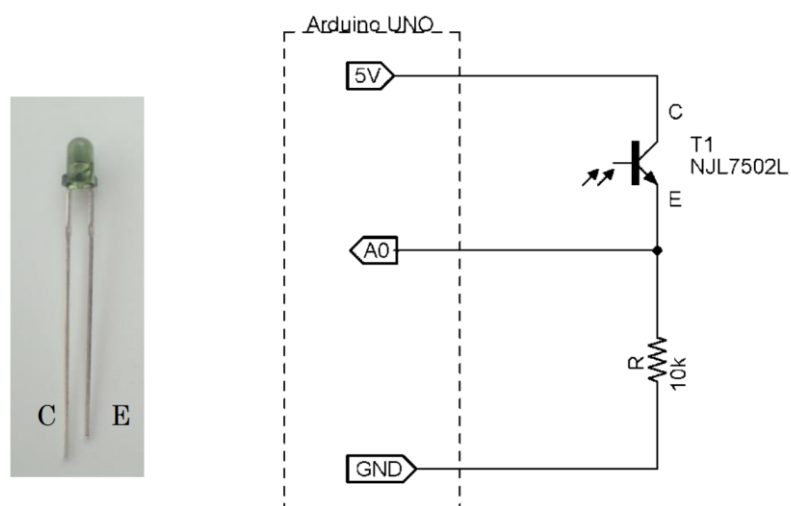
以下が実行結果である。

ラズパイからアナログ電圧として、電源（3.3V）の半分の電圧（約 1.65V）が取得。

```
KYOHEI@KYOHEI: ~/Desktop
ファイル(F) 編集(E) タブ(T) ヘルプ(H)
電圧      : 1.648
受信データ : 824
電圧      : 1.648
受信データ : 824
電圧      : 1.648
受信データ : 824
電圧      : 1.648
受信データ : 824
^Z
[1]+ 停止                  python ADconversion.py
KYOHEI@KYOHEI:~/Desktop $ python ADconversion.py
受信データ : 824
電圧      : 1.648
受信データ : 824
電圧      : 1.648
受信データ : 824
電圧      : 1.648
受信データ : 824
電圧      : 1.648
受信データ : 824
電圧      : 1.648
受信データ : 824
^Z
[2]+ 停止                  python ADconversion.py
KYOHEI@KYOHEI:~/Desktop $ scrot -d 2
```

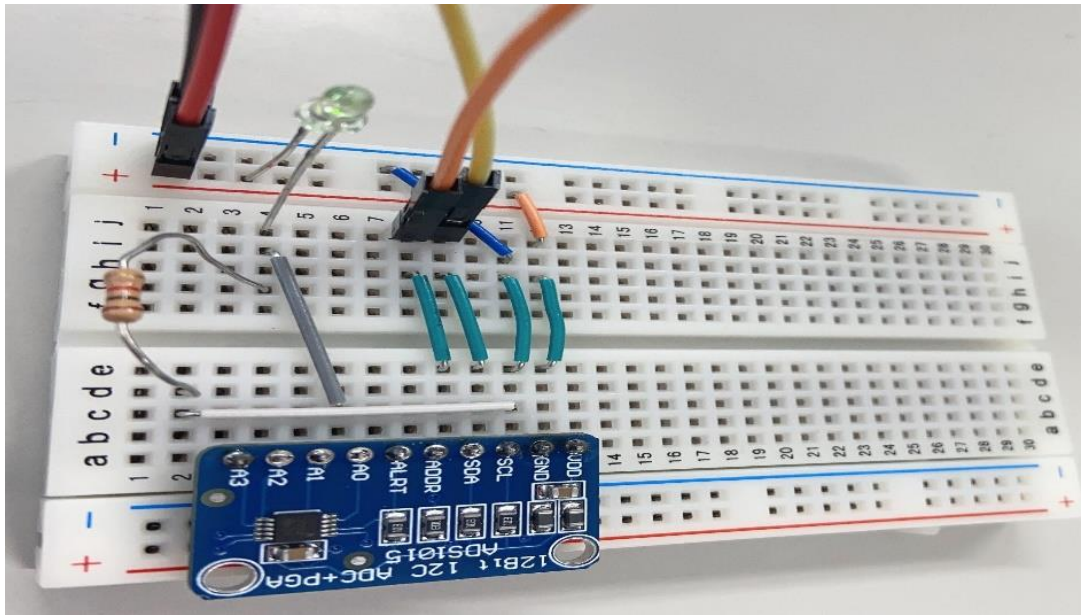
○照度センサを用いて構築

以下は 3 年のシステム実験の資料を引用



Arduino UNO ではなく、ラズパイ

5V ではなく、 3.3V を使用している。



以下のように構築したが，実行結果より照度センサが機能していない（センサ値が変動していない）ため，配線に問題がある，もしくはプログラムに追加コードを入れるべきである．

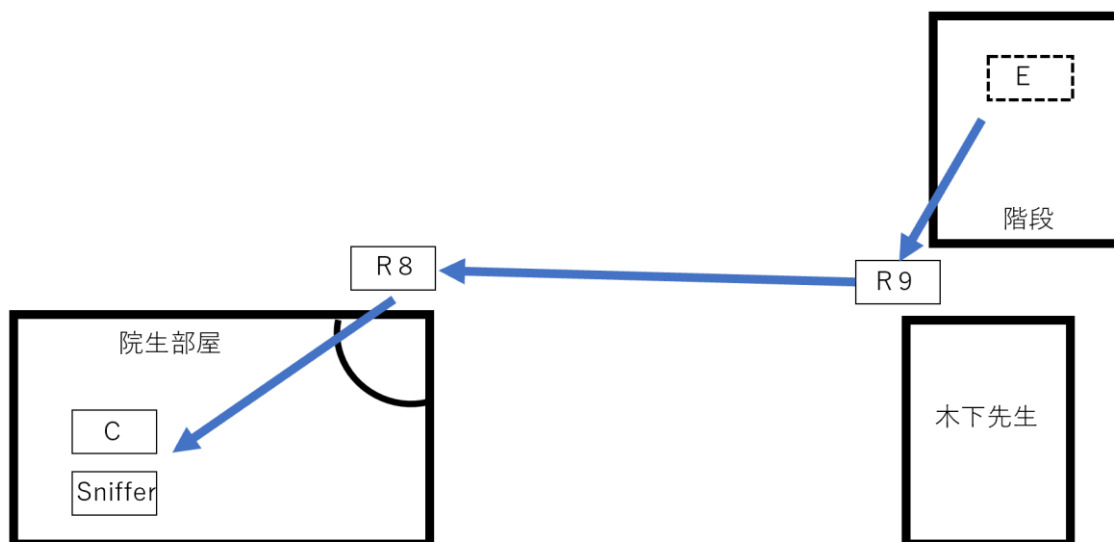
```

KYOHEI@KYOHEI: ~/Desktop
ファイル(F) 編集(E) タブ(T) ヘルプ(H)
受信データ : 637
電圧       : 1.274
受信データ : 637
電圧       : 1.274
受信データ : 637
電圧       : 1.274
受信データ : 637
電圧       : 1.274
受信データ : 637
電圧       : 1.274
受信データ : 638
電圧       : 1.276
受信データ : 638
電圧       : 1.276
受信データ : 638
電圧       : 1.276
受信データ : 638
電圧       : 1.276
受信データ : 638
電圧       : 1.276
^Z
[6]+ 停止          python ADconversion.py
KYOHEI@KYOHEI:~/Desktop $ scrot -d 2

```

【実装したトポロジを wireshark で確認】

物理的に距離を取って wireshark で確認. アルベルト先生に収集データを送信済みである.
 以下は実験を行った際の MONOSTICK の配置と想定しているデータの流れである.



Wireshark の結果では, 送信元が Enddevice, 宛先が Coordinator になっている.
 しかし, sniffer の範囲から考えると, 送信先は Router 8 になるのでは、、、

【正確な UART の 16 進数受信】

まだ原因を調査中

【スケジュール】

C	D	E	F	G
6/30~7/7	・ AD変換チップをラズパイに実装 ・ UARTの初期設定	・ UARTに関する情報収集 ・ 論文調査	AD変換チップの実装	AD変換チップをラズパイに実装する.
7/7~14	・ ラズパイとMONOSTICK間でのUART通信の構築 ・ 狭い範囲でのSnifferを動作	・ UART通信の大まかなプログラミング ・ SnifferをWiresharkで確認	・ UART通信のloopback	・ loopbackを可能にする ・ AD変換チップの実装
7/14~ 21	・ AD変換チップの実装 ・ loopbackでのUART通信	・ AD変換チップの実装 ・ loopbackの通信	・ 受信データの正しい表示	・ 送信データを受信側で正しく表示させること
	スケジュール	実施したこと	できなかったこと	来週への課題
7/21~28	・ UARTの正確な受信表示 ・ センサを用いたAD変換 ・ 再度wiresharkでデータ収集	・ wiresharkでのデータ収集 ・ AD変換をしたセンサ値の表示	・ MONOSTICK受信データの正確な表示	・ wiresharkのデータ分析 ・ 受信データのプログラムの改正
7/28~8/4	・ wiresharkでのデータ確認 ・ MONOSTICKでの受信データのプログラム改正			
8/4~	・ MONOSTICK 2 台での通信 ・ 「センサ→MONOSTICK」一連のデータ送受信を構築			